

大明小学校 校長室から

令和3年3月2日

No. 19

文責 校長 穴山 直樹

一年を振り返って

一年間本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年度も残りあと一ヵ月となりました。学習のまとめを行い、新しい学年に向かっての充実した一ヵ月にしたいと考えています。

さて、この一年間のお子さんの成長ぶりはいかがだったでしょうか。身長や体重のように目に見える成長だけでなく、今年度が始まった5月ごろを思いおこすと、できるようになったことがたくさんあることに気づくことと思います。

新しい学年を迎えるこの時期は、学校としても一人一人の子どもの成長を見つめるとても大切な時期です。特に学級担任は学級の子ども一人一人がこの一年を通じてどれだけ成長したかを日々の実践記録を通じて確認します。子どもたちのこの一年間の成長を進級を機に次のさらなる成長へとつなげていきたいと思っています。

子育ては難しいことが多くありますが、親としてわが子が将来どのような大人になってほしいのかをきちんと持つことがとても大切だと思います。その上に立って、今わが子に求めることは何なのかを考えていくことがよいのではないのでしょうか。今月末にお子さんとの一年間の成長を振り返ってみてください。私たちが各お子さんに最も適した指導や支援を常に模索しています。保護者の皆様方や地域の方々と一緒に考え、ともに子どもたちの成長の喜びを感じ、より良い教育を進めていきたいと考えています。

非常災害時の対応

2011（平成23）年3月11日、あの東日本大震災から10年が経過します。被災地ではいまだに仮設住宅で生活を送られている方々もいらっしゃるが、復興が遅れている町並みには災害の爪痕を感じます。

東日本大震災が起こった当時、我が家の避難対策は大丈夫か、家の中を点検したり、水や保存食を確認したりしたご家庭も多かったのではないのでしょうか。しかし、大地震に対する切迫感は月日の経過とともに少しずつ薄れつつあるのではないのでしょうか。「天災は忘れたころにやってくる」、寺田寅彦さんの警句を思い起こして、非常災害に対する準備を怠りなく行っていきたいと思うこの頃です。

学校では、災害時、児童の安全を守ることを第一に対応します。ご家庭においては災害に直面したときは、各ご家庭での対応が行われると思います。しかし、常に考えておかななくてはいけないことは子どもが一人である状況での災害対策です。ぜひ、この機会に各ご家庭でどのように対応したらよいかを話し合っておいてください。（このことはこれまでの避難訓練の時に子どもたちには伝えてきています。）

①家族がバラバラであったときの集合場所を決めておくこと。家族で落ち合う場所や連絡の方法を決めておきましょう。②各ご家庭で非常時に備えて準備をしておくこと。ラジオや懐中電灯などを入れた非常災害時用のリュックの用意や、防災頭巾などをそろえておきましょう。③まず自助。自分の命は自分で守るという意識を家庭内で確認すること。その後誰かのために何ができるか考えることです。

これまでの学びから災害時の初動がとても重要となります。いくつかの災害を想定して各ご家庭で話題にさせていただくことが防災教育や安全教育の動機づけとなります。よろしくお願いたします。